

(様式1)

平成28年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 042	提案機関名 農業技術センター 横浜川崎地区事務所
要望問題名 サクラ・ハナモモ切花の8月開花技術の開発	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）】 川崎市宮前区は、大正時代から生産部会を設立し枝物を生産、出荷している、歴史と伝統のある産地である。生産される品物は品質が高く、平成26年度関東東海花の展覧会の枝物部門において、農林水産大臣賞を受賞しており、過去に何度も受賞している。 生産物は東京の市場でも高く評価され、海外へ輸出する話も出ている。その中で、2020年に行われる東京オリンピック・パラリンピックの神奈川県会場における表彰式において、川崎及び日本を代表するサクラ・ハナモモを使ったビクトリーブーケや、試合会場やプレスセンターに切花を飾り、国内外の人々に川崎市の花をアピールし、輸出を含めた生産振興につなげたい。 生産者はサクラは敬翁桜系（東海桜など）、ハナモモは照手シリーズの抑制開花技術の開発を希望している。サクラの栽培面積は約2ha、ハナモモの栽培面積は約5ha。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	担当部所	生産技術部果樹花き研究課
対応区分	<input checked="" type="checkbox"/> ①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 <input checked="" type="checkbox"/> ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合) 消費者ニーズに応える高品質・安定生産技術の開発		
対応の内容等	ハナモモ及びサクラの切り枝を夏季に開花させるには、休眠枝の長期貯蔵技術及び貯蔵後の開花技術の2点を確立する必要があります。前者につきましては、4℃設定のインキュベータ内で3ヵ月以上長期貯蔵した場合、開花品質が著しく低下することが予想されますので、その対応方法については、今後検討します。 一方、貯蔵終了後の夏季高温下における開花技術につきましては、技術センター内施設では対応できないことと、現地生産農家が既に高い開花養成技術を有していることから、現地指導を中心に対応をお願いします。		
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			